

第 3 回 結城南中学校区新設校推進委員会議事録

結城市教育委員会

第3回 結城南中学校区新設校推進委員会議事録（要旨）

- 日 時 令和4年9月27日（火曜日）午後6時30分から午後8時
- 場 所 結城市役所 大会議室1・2・3
- 出席委員
- | | | | | | |
|-----|-------|------|--------|----|-------|
| 委員長 | 小島 睦 | 副委員長 | 関 篤 | 委員 | 田村 俊之 |
| 委員 | 栗山 良一 | 委員 | 湯本 勝洋 | 委員 | 塚田 裕史 |
| 委員 | 村田 則文 | 委員 | 阿良山 輝明 | 委員 | 齊藤 貴樹 |
| 委員 | 石崎 裕子 | 委員 | 山中 裕太 | 委員 | 熊谷 誠 |
| 委員 | 大熊 健児 | 委員 | 松浦 英修 | 委員 | 永藤 嘉重 |
| 委員 | 赤塚 英男 | 委員 | 栗原 隆雄 | 委員 | 池田 浩一 |
| 委員 | 大島 茂男 | 委員 | 小嶋 久男 | 委員 | 江連 浩 |
| 委員 | 稲葉 敏次 | 委員 | 船橋 清 | 委員 | 秋元 勇人 |

○教育委員会事務局

教育部長 飯田 和美 学校教育課長 大木 博
学校再編係長 和泉田 真 主幹 伊佐岡 真美

○オブザーバー 株式会社桂設計第3設計室長 白須 若菜

●次第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議事
 - (1) アンケート調査結果について
 - (2) 新設校の学校種について
 - (3) 新設校の整備に関する諸室等について
- 4 その他
- 5 閉会

○要旨

1 開会

2 委員長あいさつ

- ・第3回目の会議では8月中に実施したアンケート調査の結果について事務局から説明をいただく。新しい学校の学校種について義務教育学校、小中一貫校についての意見をいただき推進委員会として取りまとめをしていきたい。学校種や学校の諸室については新しい学校のあり方や結城市が目指す教育の方針に関わる事項になるので忌憚ない意見をいただきたい。

3 議事

(1) アンケート調査結果について

【事務局説明】

- ・令和4年8月31日まででアンケートを締め切り、結城南中学校区の小中学校全ての児童生徒対象、同じく小中学校の全ての保護者対象、教職員対象、5つの小学校区の地域住民対象のアンケート結果を集計し、対象ごとの特徴や傾向などについて説明。
- ・小学校の児童における新設統合については「知らない」と答える割合が10%から41%と学校によってばらつきがあるが平均すると3割の児童に認知度が低いという結果。今後児童に対する十分な周知の必要がある。今の学校の好きな場所や好きなこと、新しい学校にあったらいいと思うものについては「図書室や音楽室などの特別教室」「ブランコなどの遊具」「広いグラウンドや中庭」「ウサギ小屋」など伸び伸び過ごせるような施設や環境、心の癒しを求めていることが分かる。新しい学校で心配なことは「友達づくりへの不安」を感じている児童が多いことから統合後の心のケアが重要である。
- ・結城南中学校の生徒からの中学校の好きな場所の回答は「広いグラウンドや大きな体育館、中庭」などを挙げる声が多く、結城南中学校の特徴と見ることができる。小中一貫教育に期待することは「小学校と中学校との交流による友好関係の広がり」「学習の先取り」を期待していることが伺え、事務局の目指す小中一貫教育の方向と一致している。
- ・保護者における一貫教育や統合についての認知度は97%であり学校教育への関心の高さが伺え、期待することは「学力・学習意欲の向上」「交流による社会性・人間性の育成」が多く、単学級の現状から児童数が増えることにより切磋琢磨する機会の充実を望んでいる意見が多いことが分かる。またスクールバスの導入により通学の安全性に期待する意見も多い。一方課題として「きめ細やかな指導ができなくなる」「途中で学校が変わることによる環境の変化」「通学距離が長くなることによる安全面」に不安を感じている。現在の学校の危険箇所としてほぼ全てが通学路に関することであるため継続的な安全対策が必要である。その他要望や意見ではスクールバスのルールや雨天時の車の送迎が心配、教室に行けない子どもの心のケア、説明会の開催を求める声があった。
- ・教職員の回答では、現在の学校の良いと思う取組に「地域の協力や連携」を挙げる職員が多くおり、現在の学校・保護者・地域との良好な協力関係を新しい学校でも引き継ぐべきという声が多くあった。新しい学校の建設に大切なことは「ユニバーサルデザインに配慮したみんなが使いやすい環境」が多く、これまでの学校以上に日常的な使い勝手のよさを重視する傾向があった。

- ・地域住民対象の調査結果では、課題として「学校の跡地利用」を心配する声が多く地域コミュニティとしての学校への思いを強く感じた。その他意見や要望では、小中一貫教育の推進や学校統合など市教育委員会の取組を応援していただける声が多くある一方で、統合には反対、小中一貫教育にはメリットがないという意見も一定数あるため今後より丁寧な説明を心がけたいと改めて考える。丁寧に答えていただいた地域の皆様の思いにこたえるべく、今後の基本構想や基本計画に意見を反映して、来年度以降の基本設計・実施設計の作成につなげていく。

【意見】

- ・スクールバスについて、事務局でバス利用と徒歩通学の概算人数は出しているのか。
- ・学童保育が新設校の敷地内に設置されるのか、別の敷地に設置されるのか報告を求めたい。また、外部委託の流れもある中で新設校における学童保育の考えを5校の小学校の保護者会会長や役員同士で共有したいので話し合いの場を設けてほしい。

【意見に対する事務局の回答】

- ・スクールバスに関することは、来年度保護者や学校関係者で組織される専門部会を立ち上げ検討していくことを想定しているため、市で想定している徒歩通学とスクールバス利用の基準や概算人数は無い。
- ・学童保育については保健福祉部子ども福祉課が担当になるため、推進委員会でいただいた意見は学校再編庁内調整会議を通じて要望、協議していく。

(2) 新設校の学校種について

【事務局説明】

- ・結城南中学校区の新設校における考え方として「義務教育学校よりも、小中一貫型小学校・中学校の方が総合的に判断し、適している。」理由について以下の通り説明。
 - ア 義務教育学校では実施しない入学式や卒業式といった節目となる学校行事の実施により、地域との交流やつながりをより大切にすることができる。
 - イ 令和9年度推計で小学校472人、中学校295名であり小学校と中学校それぞれに校長先生を置くことにより、成長過程におけるきめ細かい対応が可能。9年生義務教育学校の場合797人規模の学校となるため、校長や教職員の負担が大きくなる。
 - ウ 教員数の推計は義務教育学校では55人、小中一貫型小学校・中学校では小学校31人、中学校30人となり、全体での教員数や児童生徒指導加配などの教員加配も多い。
 - エ 義務教育学校にする場合は5つの小学校と既存の中学校を統合することとなり、影響が大きくなるため児童生徒の環境の変化や先進的な不安感が大きくなる。
 - オ 結城南中学校の校舎は機能的な変更（小学生が使用できるようにするための改修）は加えず、現状を生かす予定である。

【意見】

- ・現在どの学校においても入学式や卒業式といった学校行事で地域との交流やつながりに関わる取組は特に無いので、それを理由にして小中一貫型小学校・中学校とした場合にその取組ができるのか心配。
- ・教員数が多いことはよいことだが、県内で教員不足が叫ばれている中、推計通りの職員の確保ができるか心配であるため、より推計人数の多い小中一貫型小学校・中学校を選ぶ理由が不明確。

【意見に対する事務局の回答】

- ・教職員の推計は法律上定められた必要な教職員定数であるため、不足があった場合でも子どもたちに不都合が無いように講師や教員が配置されると考える。

(3) 新設校に整備する諸室等について

【事務局説明】

- ・資料3-1「本計画に適した小中一貫教育の校舎設置比較」に基づき、文部科学省が示す14種類の校舎配置のうち中学校の敷地内に統合小学校を計画し小中一貫校として整備する方針にあわせた4種類に絞り検討した内容を説明。「統合小学校と結城南中学校を渡り廊下で接続」する方法が教育面や施設面（必要改修事項の有無）で最もメリットが高いと判断した。
- ・資料3-2「統合小学校配置検討」に基づき、中学校の耐用年数到来に合わせ将来的な中学校の建替えを踏まえた統合小学校の配置箇所の検討内容を説明。小学校と中学校の連携の取りやすさや冬場の北西の風を遮ることによる快適なグラウンド利用の観点から「西側に配置」する案を提案する。
- ・資料3-3「既存5校の所要室比較及び統合小所要室の規模設定（案）」に基づき、既存の5校の小学校の教室運用を参考にしつつ、統合小学校における文部科学省基準と比較しながら規模想定を説明。従来別室であった図書室とパソコン室を一体化したメディアセンターや多目的利用ができるランチルームは小中連携での活用を見据えて計画している。
- ・資料3-2の結城南中学校の敷地内における配置イメージや資料3-3の各諸室の想定面積を図面に示したものとして資料3-4「統合小学校概略プラン（案）」を提示する。資料3-4については諸室を検討するための補助資料であるため、会議終了後回収とする。基準としている1教室の大きさは従来では8m×8mで64㎡のところ、新JIS規格で机のサイズが大きくなっていることや35人学級編制に伴う教室レイアウト（2人机を付けるのではなく一人ひとりバラバラに配置する）を考慮し文部科学省基準である74㎡とする。西側に来客用駐車場、配膳車入口の設置を計画することから学校敷地をセットバックし道路を拡幅する計画とする。くし形の造りとすることで各教室の南側からの採光やアンケートで希望のあった中庭を設けることができるようになる。

【意見】

- ・提案内容にはブランコなど遊具広場がないので、最終案では入れてほしい
- ・現在の学校で、雨天時における車での保護者の送迎により渋滞になる状態があるため、新設小での送迎用の車の動線についても考えてほしい。
- ・中学校の校舎と中学校の屋内運動場をつなぐ渡り廊下は屋根だけでなく、雨天時でも濡れずに移動できるように壁も付けてほしい。
- ・中学校の屋内運動場にはトイレが無いため、台風の時に避難した際に外トイレに行くために大雨の中外に出なくてはならなくて、特に高齢者や女性は不便であったことから新設小学校にあわせて改善してほしい。
- ・これからの多様性を認め合う時代にあわせて、特別支援教室を1か所にまとめることはしないほうがよい。

- ・新設小学校および結城南中学校のプールが建設されないことについて、民間水泳教室での業務委託や他の学校のプールの共同利用との比較検討の内容を示してほしい。
- ・市から自治会に対して自主防災組織の立ち上げが求められているため、新設小学校においても防災機能の一部を盛り込み、付加価値を高めてはどうか。
- ・統合小学校建設後のグラウンドにおいて小学生と中学生の利用が同時にできるのか、同時に利用する場合の事故防止のためにどちらかに制限がかかるのでは小中一貫校として統合する意味が無いのではないか。
- ・雨天時の送迎用保護者の待機場所や運動会開催時の保護者の駐車場所を考えた時に中学校敷地内での統合小学校建設による、共有のグラウンド利用は狭いと思われる。周辺の土地を買収して統合小学校を建設する予定は無いのか。

【意見に対する事務局の回答】

- ・教室の配置や仕様など具体的な内容については、今後の基本設計・実施設計での検討に反映していく。
- ・令和9年度の結城南中学校生徒の見込みである300人という人数規模に合わせ、子どもたちが十分活動できるグラウンドの面積は確保していく。

4 その他

【意見】

- ・今後の保護者、地域の方への説明会についての予定はあるか。

【意見に対する事務局の回答】

- ・次回の会議で取りまとめていく新設校の学校種、目標やコンセプトを含めた基本構想・基本計画の中間報告や最終的な基本構想・基本計画が公表できる段階で説明会を実施していく。実施時期としては今年度末か来年度当初であり、説明会を実施する場合は学校の協力を得ながら要望を取りまとめていただいた上で実施していく。

5 閉会